



夢への飛躍

金沢桜丘高校いしかわニュースーパーハイスクールだより

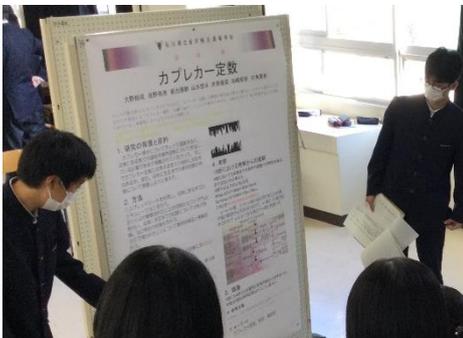


令和4年度 第6号
編集：NSH推進課
発行責任者：正村泉一

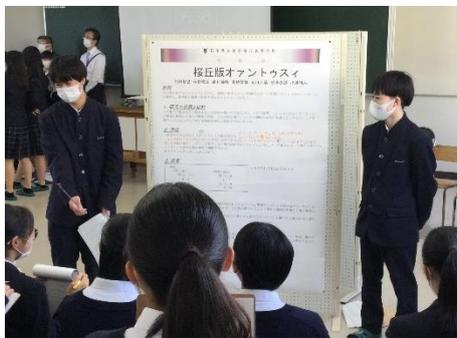
【自然科学】課題研究校内発表会

自然科学コースでは、11月3日（木）、本校大講義室にて、石川県立大学より講師お二人をお招きし、課題研究の発表会を行いました。班ごとに研究テーマを選び、4月から研究を進めてきました。研究の成果をポスターセッション形式で話し手・聞き手を交代しながらお互い発表しました。聴衆として先生方や人文科学コースの生徒も参加し、お互いが刺激を受けるいい機会となりました。生徒間で積極的に質問する姿が見られ活発な意見交換が行われました。

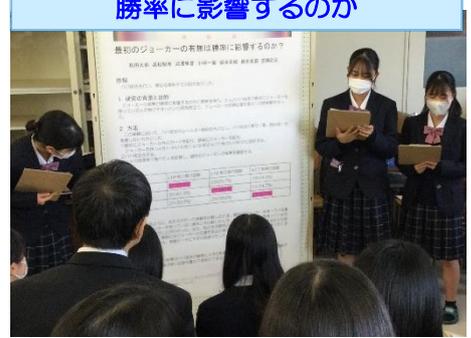
カプラー定数



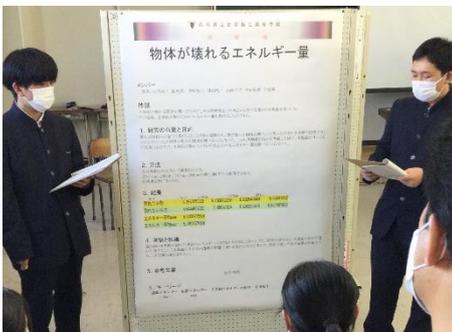
桜丘版オアントゥスイ



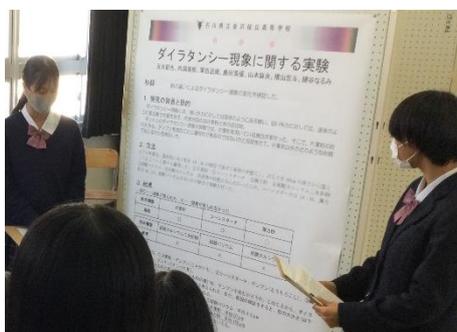
最初のジョーカーの有無は勝率に影響するのか



物体が壊れるエネルギー量



ダイラタンシー現象に関する実験



四葉のクローバーを人工的に作り出す



～講師の先生方の講評より～

- 石川県立大学教養教育センター 准教授 稲葉 宏和 先生
 - ・要素が多い場合は、どこに絞って研究をするのか考えることも大切。
 - ・「いきなり大発見」ではなく、現在分かっていることに少し+すればいい。「巨人の肩に乗る」と言われるが、先人の知恵を借りることによって、より遠くを見る研究ができる。
- 石川県立大学生物資源工学研究所 助教授 中谷内 修 先生
 - ・大学の研究は解答集のない、だれも知らない研究。思い通りの結果にならなくても、そこから何かを見つけ出そうとする（自分たちの研究に価値を見出そうとする）意識が大切。
 - ・題材が面白いものが多く、ストーリー性も◎。発表後のグループ分析もよくできていた。

～発表会を終えて感想～

- ・講師の方など大人の着眼点が鋭いと思った。疑問を持てるということはよく理解しているからなので、疑問をもてるようになりたい。
- ・実験に失敗していたかと思っていたが、それはそれでありだと自信を持てた。次の発表会までにもっと実験データを集めて、改善していきたい。
- ・実際に発表することで、自分たちの班に足りない部分が明確になった。もっと説得力のある説明ができるように準備していきたい。他の班の発表の仕方で参考にしたいものがあり、見ることでよかった。